

北九州での研修

氏 名 レ ヅ アン アイ ン
出 身 国 ベトナム社会主義共和国
受入自治体 福岡県北九州市
研 修 先 北九州市役所



1. 本事業に応募した動機

近年、ハイフォン市はいくつもの分野で重要な成果をなしとげてきたが、FDI（海外直接投資）の分野においては特に明るい材料を提供している。2012年、ハイフォンはFDIにおいて国内第2位にランクされた。外国からハイフォンへの投資において、日本はプロジェクトの件数（90件）と投資額（27億米ドル）の双方で第1位であり、地元の社会経済の発展に貢献した。

市は積極的にインフラを整備している。2、3年以内にプロジェクトが完了すれば、ハイフォンは工業生産分野の投資先としてだけでなく、観光や文化の目的地にもなるだろう。ハイフォンは資本、ノウハウ等持続可能な開発のために様々なリソースを必要としている。

ハイフォンは急速な経済成長と都市化の結果、水質汚濁や大気汚染等、深刻な環境問題に直面している。

ハイフォン市と北九州市は友好・協力協定（期間：2009～2013年）に基づく事業を効果的に実施しており、両市はともに今後の協力関係強化を望んでいる。

ハイフォン市が現在直面している問題を、かつて日本の複数の地方自治体も抱えていたが、持続可能な発展のため諸問題を解決していったと認識している。ハイフォンは、共通点の多い北九州市から学ぶべきである。

2. 研修の概要

（1）私が学んだ分野

私は日本の地方行政、北九州市の国際環境戦略、北九州市の国際交流、国際関係、観光振興、投資政策、日本のプラント管理などについて学んだ。

北九州市の概略をはじめ、上下水道局、環境局、国際ビジネス振興課など関連部局の事業説明を受けた。



プラント管理を学ぶために
九州トヨタを訪問



新日鉄住金の工場訪問



ハイフォン市代表団の
香川県出張をサポート

(2) 交流事業の現場視察

私は北九州の浄水場、廃水処理工場、エコタウン・プロジェクトの現場を視察した。また、ベトナムへの投資促進や日本の投資家向けの経済セミナー、10月15-17日のエコマネージャー研修、2013年10月18-20日の「ダイナミック・アジアにおける都市のグリーン成長に関する市長フォーラム」などにも参加した。

(3) ハイフォン市と北九州市の協力強化

7月22日-8月22日の工業職業訓練短期大学代表団のプラント管理研修、をするとともに、7月12日-8月12日のハイフォン水道公社の研修、10月8日-10月22日のハイフォン下水道排水公社の研修等に参加するとともに、11月12日-14日のハイフォンスケール社による東洋精工株式会社訪問への同行など、ハイフォン市からの北九州市出張をサポートした。

ハイフォン市外務局などの部局と協力して、北九州市側のハイフォン出張をサポートした（北九州市の企業およびKITA北九州国際技術協力協会、北九州アジア低炭素化センター、国際ビジネス振興課など）。

また、10月5日-8日のハイフォン人民委員会代表団の香川県訪問や、10月19-22日の環境市長フォーラムに出席するハイフォンの代表者をサポ

ートした。

北九州ベトナム協会が北九州市で企画開催したセミナーでは、ハイフオンの文化、歴史、観光や人々、ならびにハイフオン市と北九州市の協力関係についての発表も行った。

2009－2013年のハイフオン市と北九州市との友好・協力協定に基づく事業評価に対する協力、および2014－2018年の新たな協定に関する文書を作成した。

日本で学ぶベトナム人留学生に対して北九州市の環境保護を広報するために、ベトナム語から英語に、また英語からベトナム語に文書を翻訳した。

日本語学習を続け、北九州国際協会およびJICA九州の文化交流活動に参加した。

(4) 3度の他都市出張

東京出張：ベトナム見本市や投資促進セミナーなど、東京で日越国交樹立40周年を祝うベトナムデーの催しに参加した。

香川県出張：ハイフオン市副市長をはじめとする代表団の香川県訪問をサポートした。

北海道出張：廃水資源の再利用促進のために千歳水道局の千歳汚泥プラント、札幌下水道局科学館を訪問した。

3. 帰国後の展望

国際交流・協力は、近年重点が置かれているハイフオンの優先課題の1つであり、市は国際交流・協力活動からきわめて顕著な成果を達成しているが、政策、地方の行政手続き、人的資源など多くの課題があり、まだ十分に能力を発揮できていない。

ハイフオンは深刻な環境汚染に直面してきたため、水の供給、排水、廃水処理の向上を目指す国際協力が市にとってはきわめて重要である。

私は日本での研修を通じて、ハイフオンが水の供給、下水と排水、固形廃棄物の処理やエコタウン・プロジェクトの建設、ならびにグリーン成長の実施などに関して、北九州市との緊密な協力を続けていかなければならないと認識した。

ハイフオンへの投資と観光の振興活動は良好に進んでいるが、市は長期的な戦略と政策を策定し、地方自治体の行政改革によってそのスピードを上げていかなければならない。北九州市の企業からの投資やビジネス交流には潜在力があり、市や関係組織からのより多くのサポートを必要としている。

ハイフオンの多くの人々が日本の教育と生活環境を高く評価しているため、ハイフオンと北九州、そして日本の他都市との教育・文化交流の強化は、さらなる経済成長のために双方にとって有益である。

研修生兼地方公務員としての知識と意識をもって、私はハイフオン市の指導者層に報告を行い、さらなる協力と発展のための提言を行うつもりである。

日本の環境保護政策を学んで

氏 名 毕 克
出身国 中華人民共和国
受入自治体 福岡県北九州市
研修先 環境局アジア低炭素化センター



1. 本事業に応募した動機

私は北九州市の友好都市である大連市からの自治体研修生として、2013年5月19日に日本に来ました。大連での私の職場は環境保護局科学技術産業兼国際交流処です。現在、大連市は日本に支援していただいているエコタウンを建設しています。今回の目的は北九州市のエコタウンの管理制度・システム及び処理事業の内容に関する理解を深めること及び環境モデル都市北九州市の先進的な環境保全技術とエコタウン管理システムを学ぶことです。

2. 研修の概要

最初の45日間、滋賀県の全国市町村国際文化研修所（JIAM）で、日本語の研修を受けました。そして、この期間に、日本の自治体制度、日本の風習礼儀などの講義を学び、琵琶湖、京都の金閣寺、彦根城などの名所の見学を通して、日本の地方自治体制度と日本の文化と歴史を少し知ることができました。その後、7月4日に、私は新幹線に乗って北九州市に来ました。ここで本当の研修生活が始まりました。

7月5日から北九州市環境局アジア低炭素化センターで研修を受け始めました。北九州は「世界の環境首都」及び「アジアの技術首都」を都市ブランドとして構築することを目指しています。大連



北九州市ゴミ処理場の見学

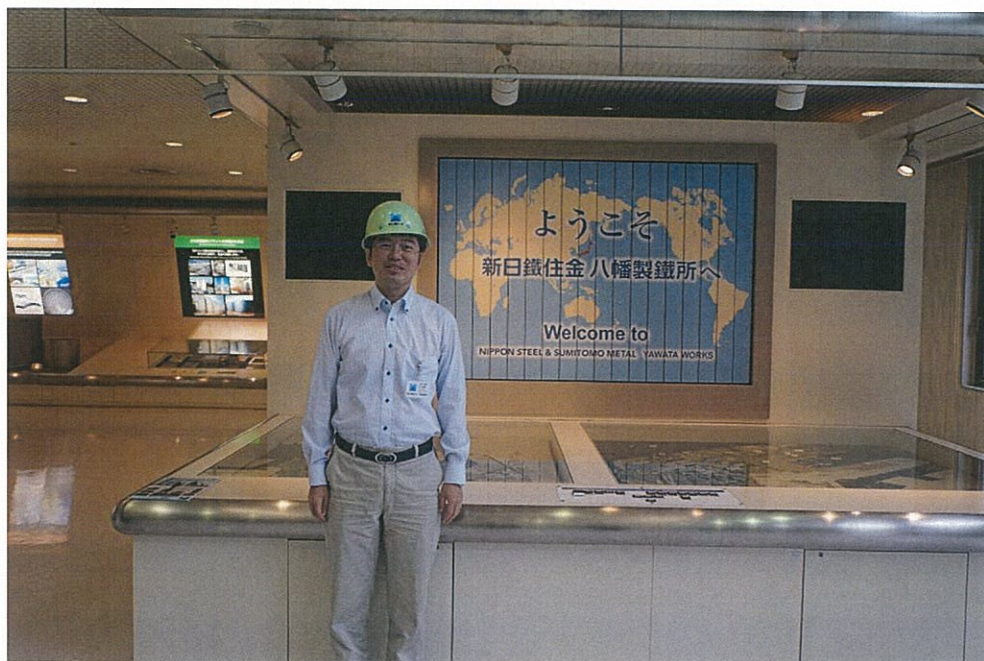
も環境友好都市を構築しています。北九州の環境保護経験が大連に大切だと思います。

私の研修の内容は主に現場見学、日常業務、講義の三つの部分があります。見学した場所は家電リサイクル工場、TOTO工場、浄水場などたくさんあります。また、外国の来訪者がくる時も一緒にエコタウンを見学しました。実地見学を通じて、日本の先進的な技術と設備、管理体系をある程度理解しました。環境関係知識の講義もあります。「北九州の環境教育」など受けました。また、東アジア経済交流推進機構環境部会を開催のため、中国の大連市、天津市、煙台市、青島市と連絡業務を担当しました。

8月10日には北九州市と大連市との間で、循環経済及び低炭素社会の推進に関する覚書を締結しました。私も締結式に参加しました。

10月、大連市の環境関係の企業さんを手伝い、北九州市の「エコテクノ2013」と言う環境展示会に参加しました。

10月17日、大連環境局の呉副局长、大連市環境産業協会金秘書長と一緒に日中環境技術紹介セミナーに参加しました。セミナーでは、環境分野で積極的に国際ビジネスを考えている北九州市と大連市の企業5社に、汚染土壌・排水処理の技術等についてご紹介しました。呉副局长は大連市の特色ある環境対策について、金秘書長は大連市環境界の低炭素化措置について発表しました。



3. 帰国後の展望

大連市は中国遼東半島の南端に位置し、600万人がいる綺麗な港町です。大連は中国の重要な工業基地であり、工業総生産は中国東北地区の都市の中で第一位を占めております。大連は人と自然の協調発展を重視しているので、

相次いで「国連居住環境ベストモデル賞」、「グローバル500」、「国際ガーデンシティー」、「国家環境保全モデル都市」など環境に関連した賞を受賞いたしました。

大連市の環境状況はますますよくなりつつありますが、まだ問題がたくさんあります。都市開発が進んでいるため、大気汚染、水質汚染と廃棄物リサイクル問題が著しいです。石炭をエネルギー源にしているため、特に石炭を多く使用する冬季にSOX（硫黄酸化物）による大気汚染が著しいです。急速な人口の増加にしたがって、下水処理場が不足し、河川や海を汚染しています。一般ゴミはまだ分別回収していないし、産業廃棄物のリサイクルと処分は日本のような発達国と大きな距離があります。このため、日本で勉強したいことがたくさんあります。

大連市に帰ると、北九州市と大連市の環境協力事業の窓口になれるかもしれません。私は必ず日本で勉強した知識を利用して、中日友好のために、北九州市と大連市のエコタウン協力事業うまく発展するために、頑張りたいと思っています。

4. 終わり

時間の流れはとても速いです。私は北九州市で6か月の研修生活を過ごしました。まもなく帰ることになります。予想した嬉しい気持だけではなく、帰りに近づくに従って、別れたくない悲しい気持ちも強くなっています。

日本に滞在した間、CLAIRの皆様、JIAMの皆様、北九州市役所の皆様、アジア低炭素化センターの皆様には、色々お世話になりました。最後に、研修期間に支えてくださった方々に、心からお礼を申し上げます。皆様、どうもありがとうございました。日本で過ごした毎日きっと私の美しい思い出になるはずです。

上水道における顧客網と管理システム

氏 名 ルー ドウック ハイ
出身国 ベトナム社会主義共和国
受入自治体 福岡県北九州市
研修先 北九州市上下水道局



1. 本事業に応募した動機

私の会社は、水の供給を行っている国有企業である。現在われわれは、28万件以上の顧客に対して7か所の水処理プラントをもっている。われわれは常に、より良質な水を顧客に供給し、生活条件の劣悪な農村地域まで上水道を展開するために最善の努力を行っている。われわれにとって第一の社会的目標は、コミュニティの全員が不当な支出負担を負うことなく、浄水を手頃な価格で手に入れられる状態を確保することである。これを実現するためには、上水道に GIS（水道管路情報システム）や配水ブロックなどの新たな管理方法を適用して費用を抑え、高度浄水処理技術（BCF）を利用して水質を向上させることがきわめて重要であり、常にインフレ率が高水準にある発展途上国においては、そのことが特に顕著である。私はこの研修コースを通じて、私の関心事を共有し、有益な知識を学ぶチャンスがあることを期待している。

2. 研修の概要

専門研修は上水道分野についてであり、上水道における顧客管理システムに焦点を置いている。このシステムは計画、顧客への配慮および管理プロセスを向上させるために、GIS を用いて給水システムの管理を行っている。私にはこれ以外にも、高度浄水処理技術、運用と保守、水質モニタリングなどのテーマがある。以下は、北九州市水道局での研修コースの間に私が研究した主なテーマである。

◆上水道における顧客管理システム（GIS）

地理情報システム（GIS）は地理的に参照されるあらゆる形式の情報の捕捉、管理、分析と表示を行うために、ハードウェア、ソフトウェアおよびデータを統合する。GISにより、われわれは数多くのやり方で、地図、球体、レポートやチャートなどの形式で関係、パターンや趨勢を明らかにするデータを表示し、理解し、問い、解釈し、視覚化することができる。

北九州市は 1985 年に、上水道管理に GIS を適用することを開始した。

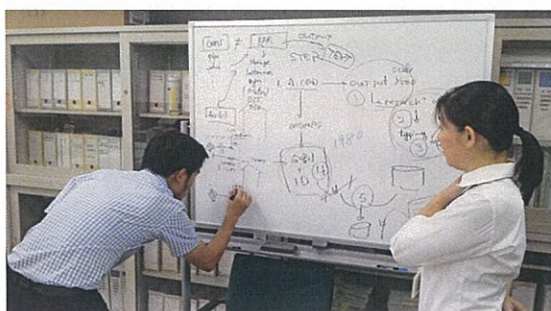
GIS は水道管の情報、ネットワーク装置（バルブ、給水栓、メーター等）およびその関連情報（漏水、保守）を管理する。GIS は顧客、消費量および料金請求の情報も管理する。水漏れ防止、メンテナンス支援、データ管理や顧客サービスにその便益が及ぶことも明白である。

私は GIS を専門とする会社であるジオクラフトで GIS の研究に多くの時間を費やした。この会社は、私が GIS の基本知識、現実へのその応用法を理解するのを助けてくれた。私は今では、データビルダーとして働くことができる。私は、配水管理課のスタッフからも講義を受けた。この課では、このシステムの利用を実際に経験することができ、とても有益である。

◆配水ブロック

私は配水ブロックシステム、ブロックデータ管理システム、および漏水検知について研究をした。合理的で経済的な配水施設の運営と管理を確保するためには、配水地域を設定する際に地形学や地質学などの自然条件とともに、社会的条件も見越すことが必要である。このため、配水地区を小ブロックに細分することが効果的である。このことは、時間とエネルギーの節約に役立つだけでなく、漏水防止や、収入に対する水量の比率の改善にも寄与する。

ブロックデータのモニタリングシステムは、北九州市では上水道と設備の運営を監督するために適用されていた。各ブロックの入り口に設置された電磁的な流量計、水量と水圧を計測する水圧計と、水質モニタリング機器を内包している。こうして、配水量を効果的に分析することができ、事故を容易に防止、発見することができる。



GIS の講義



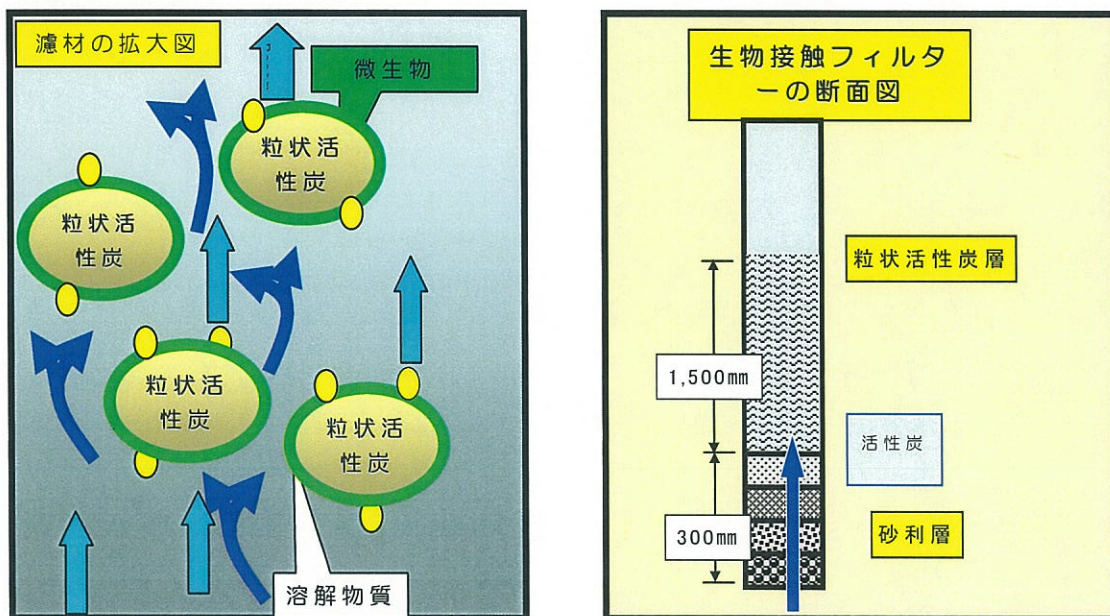
GIS のためのブロックの
データベースへの入力

◆高度浄水処理技術

U-BCF は、生物学的作用を応用した日本の高度浄水処理法の 1 つである。生物接触濾過は、上向流式生物濾過と、粒状活性炭（GAC）の濾材から成る。一定期間運転すると、GAC の表面に微生物が成長し、汚染物質を除去する。吸収と生物学的酸化の両方に、アンモニア、溶解鉄、マンガン、溶解有機物や 2-MIB のような臭気物質など、水中の汚染物質に対する強

力な処理能力がある。必要経費は定額で、環境にとって安全である。

活性炭の注入設備は粉末の活性炭を使用して原水から臭いと有機物を除去する。水処理工程で使用される化学薬品の量を減らすのに役立ち、「副生成物」の出現を防止する。



BCF の原理

◆ 企業訪問

企業を訪問して講義を受けるチャンスが何度かあった。水のコンサルタント（松尾設計、Kobelco）、GIS（ジオクラフト、日立）、水処理設備メーカー（愛知時計、クボタ）などの様々な分野で活動している企業である。これまでに目にしたことがない、またはテレビでしか見たことがなかったため、私にとってはとても貴重な経験であった。

◆ 水道工事

穴生浄水場で数日間、パイプライン工事を研究し、実践した。水道管の布設、道路の掘削、水道管の連結とかみ合わせ、道路の復旧等、すべてのステップが紹介された。水道管と連結継手の種類（Tタイプ、Kタイプ、フランジタイプ、振動防止のNSタイプ）が、この講義の中心部分である）。

◆ 他の都市への小旅行

宮古島と仙台市への小旅行が素晴らしかった。実際、これらの小旅行中に得た実践経験は、私にとって実に貴重なものである。これら都市のスタッフと語り合うチャンスがあり、上水道と文化の両面で大いに助けられた。

3. 帰国後の展望

帰国した時に行うもっとも重要なことは、学んだことを同僚や関係者と共有することである。私が研究した分野はすべて広大でそれを有効に適用するためには、私だけでは不十分である。

他方、コースの時間のほとんどを費やした上水道における GIS の適用は、今年私の会社で実行されることになっている。現在われわれは、このシステムを拡大する前に、このシステムを応用した小型モデルを作成中である。

北九州市における下水道研修

氏 名 ラマダニ ニキータ プトゥリ
出身国 インドネシア共和国
受入自治体 福岡県北九州市
研修先 上下水道局



1. 本事業に応募した動機

先ず何よりも、北九州市の提供した下水道研修に私が興味をもったのは、ジャカルタでは現在、総合下水道を利用できているのは住民のわずか3%にすぎず、北九州市ではすでに人口の99.8%の下水道需要を満たしているため、総合下水道について研究することはDKI（首都特別州）ジャカルタ政府の一部である私にとってとても重要であり、きわめて良いチャンスだと考えたためである。また、北九州市が同市で起きた深刻な公害をどのように克服し、グリーンでクリーンな都市の建設に成功したかも学びたかった。

2. 研修の概要

LGOTPの研修は、5月19日に始まった。私は1か月と2週間にわたって、東京で日本についての一般情報を学び、大津市のJIAM（全国市町村国際文化研修所）で日本語を学んだ。その後7月4日に、専門研修の下水道を研究するために北九州市に移動した。最初の2週間は北九州市についての一般情報を学び、その後は下水道その他の技術的事項に専念した。



パイプラインの取り替えの視察

北九州で起きた環境問題を学び、また北九州が取り組まなければならなかった水と大気の汚染への対応策も学んだ。計画から工事、資金調達や下水道管理事業、運用、保守、広報に至るまで、下水道についての包括的講義を受けた。

北九州で深刻な水の汚染が起きたのは、産業が急速に成長し、1901年以來鉄鋼、化学、機械、窯業等が始まって北九州が工業都市となったためであった。当時、北九州にはまだ下水道設備がなく、諸産業が廃水を処理せずに洞海湾に放出したため、この湾はやがて死の海となってしまった。汚染が最

悪の状態になったため、市民が公害問題を解決するための運動を始めた。戸畑婦人会が企業を訪ね、企業が出す汚染物質によって引き起こされた問題が数多くあるために、廃水を管理するよう企業を説得した。この運動により、政府は企業に働きかけ、環境に放出される廃水を厳格な規制によって最小限に抑えるための協定を結び、水質汚染への対応策として下水処理場の建設もスタートした。

北九州市役所が市民の健康と環境の持続可能性の重要性に気づいたため、1963年には最初の廃水処理プラントが皇后崎に建設された（この廃水処理プラントでは、最初の4年間は散水濾床法が適用されたが、結果がそれほど良好ではなかったため、その後は活性汚泥法が用いられるようになった）。現在、北九州には皇后崎、日明、新町、北湊と曾根の5か所の下水処理場と34か所のポンプ場がある。各下水処理場がそれぞれの担当地域の下水を処理している。下水道処理人口普及率はおよそ99.8%である。この数字を達成するためには、保守も重要な役割を果たしている。行政は民間企業に委託し、北九州の下水処理場の運営と保守を行っている。

北九州の下水道は、家庭廃水から始まって公共下水道まで、またマンホールを通じて本管に、最終的には下水処理場に流れて処理されるまでの総合下水道である。処理済みの水は川に放流されるが、一部は水洗トイレや公園の散水、公園にある小規模な滝などに再利用されている。また、下水処理場でできる汚泥は有機物を減らすための高度処理を受け、水分と分離された上で焼却プラントに送られて燃やされ、その他はバイオガスを生産するための処理を受け、他のエネルギーも作られている。また北九州は、セメント会社と協力して、処理済みの汚泥をセメント製造の材料の1つにもしている。

北九州には若松区にエコタウンがあり、リサイクル企業の工業団地がある。つまり、分別されたゴミはそれを処理する、または他の目的のためにゴミを変化させる特定の企業に送られる。北九州は、ソーラーパネルや風力等で新たなエネルギーを生み出すためにも、実に多くの努力を行っている。

3. 帰国後の展望

私はここで、特に専門の下水道研修で多くのことがらを学んだ。最重要事項は、衛生的に暮らすことの重要性に対するコミュニティの認識を築き上げることである。第一ステップで、コミュニティとセミナーや集会を通じて、土壌や地下水の汚染を防ぐための汚水の処理、また川の汚染を防ぐための家庭雑排水の処理について話し合い、第二ステップで、ジャカルタの下水道システムにより、生活水準の向上を促す。洪水対策としては、川の水深を標準化し、豪雨による雨水を集めるだけの正常な水深を得なければならない。

長期的には、代表的な場所に建設した処理場で、DKI ジャカルタ州政府の技術部および環境部門と協力して都市規模のパイロット・プロジェクトを行う。

国際都市で研修を終えて

氏 名 ラケル デ ソーザ イ シウバ
バルキーニャルス
出身国 ポルトガル共和国
受入自治体 長崎県長崎市
研修先 長崎市役所



1. 本事業に応募した動機

私は非常に発達した国で進んだ実務を学ぶことを通して、多文化コミュニケーション技術を向上させたかった。また私は長崎市とポルト市の間の相互協力を育むことや、相互理解に貢献したかった。特にこの姉妹都市提携 35周年の年に行いたいと思っていた。加えて、私は遠い地でまた多くのヨーロッパ人とポルトガル人と関係のある都市で研修員になってみたかった。さらに、ポルトガル国内から多くの関心を寄せられている都市に来たかった。最後になるが、素晴らしい日本文化をよりよく知り、平和活動で世界的に有名な都市に住んでみたかった。

2. 研修の概要

5月に到着して、日本の行政や国際研修プログラムについて学んだ。また私は国家、地方行政組織の紹介を受けた。その後、日本語や日本文化を学び始め、これを11月まで続けた。定期的に授業やイベントに出ることで日本語を学んだ。

7月には長崎に到着し、田上市長に表敬訪問を行った。長崎では国際課の日常業務を経験した。私はポルトガル語への短い翻訳に取り組んだり、どのように外国人観光客がサポートされているかを学んだ。また私は、たくさんのイベントに参加したり市内外で視察を行った。視察先の多くはポルトガルと関係のあるものだった。このことから、ポルトガル文化とキリスト教の強い影響を知ることができた。この後、広報分野の活動、例えば、Facebookへの投稿原稿



平和祈念式典



新駐ポルトガル日本国大使
による表敬訪問

の執筆手伝いや広報誌、新聞、TVの取材同行などを行った。

たくさんの関係箇所を訪れ、市内外でたくさんの平和実現への努力について知った。8月には長崎平和祈念式典へ参列したが、私が出席した中で最も重要なイベントであった。その式典では、式典実施のために膨大なプロトコールや巨大な運営計画が必要であることが分かった。この長崎で学んだことは私がポルトガルに戻ってから同様のイベントを組織するために重要である。



35周年イベント

9月からは小学校や長崎大学で講義を行った。

本研修課程を通じ、私たちの両都市の文化が470年にわたり公に関係を保ってきたことを学んだ。日本人でポルトガルに関係する公の人々や長崎ーポルトガル友好団体とのつながりをもつことで、ポルトガルの文化がいかに長崎で敬意をもって受け入れられているかを知った。10月にはうんすんカルタ大会に出場した。11月には長崎市ーポルト市姉妹都市提携35周年イベントに参加し、市民にポルトガルについて紹介した。こうしたイベントを通じ、長崎がポルトガルに対してもっている尊敬の念について感じた。

3. 帰国後の展望

日本語を学び続け、2014年に地元のポルト大学で行われる日本語能力試験を受験するつもりである。ポルト市の上司にこの6か月の研修の成果を報告し、私が学んだことを同僚のためにプレゼンテーションにして伝える。長崎で学んだことを共有したり、ポルト大学と会議を行い教育協力プログラムを提案してみようと思う。ポルト市を日本人や他の外国人観光客にとってより友好的な観光地になるように意見を言ってみる。観光客用の日本語パンフレットを編集したり、もっと多くの日本語版パンフレットを作成したい。また在住外国人については、外国人を正式な手順で手助けするため長崎市が作成しているような冊子の制作を提案しようと思う。上司に長崎平和祈念式典と、平和首長会議の重要性について紹介したい。そして、多くのポルトガルの都市に平和首長会議に参加してもらいたい。また、長崎と将来高いレベルでの政治ミッションを行う必要性を説明したい。政治家、国際関係の職員や日本と貿易を行っている地元企業への研修を実施することを計画するつもりである。私は彼らに日本のプロトコールのルールと習慣について教えたい。

佐世保市での研修と生活体験

氏 名 黄 曉瑩
出身国 中華人民共和国
受入自治体 長崎県佐世保市
研修先 佐世保市役所



1. 本事業に応募した動機

佐世保市と廈門市が姉妹都市の締結をして、2013年で30周年を迎えます。私は大学で日本語を専攻し、卒業してから4年あまり、廈門市政府の外資誘致事業に関する仕事を経験して、特に日系企業誘致を担当しました。今まで日本に関する仕事をしていますが、2年前に出張で日本を訪問した時、自分が日本に対して分からないところ、また、興味を持ったところがたくさんあるのに気づきました。その時からもっと直接日本に触れたい、日本で生活してみたいという気持ちが強くなったため、本事業に応募しました。

2. 研修概要

(1) 東京研修 (5月20日－5月22日)

研修のオリエンテーションや「日本の地方自治制度」についての講座を受け、国会議事堂等見学に行きました。また、全国市町村国際文化研修所(JIAM)での日本語研修のため日本語能力クラス分け試験を受けました。

(2) 全国市町村国際文化研修所(JIAM) (5月23日－6月20日)

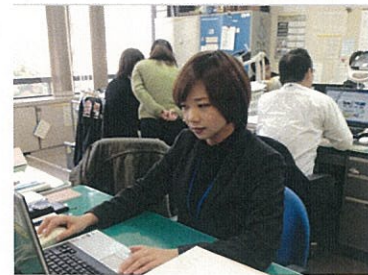
JIAMで約1か月間日本語の研修を受けました。日本語テキストの勉強、また、先生との交流を通じて、日本の色々な社会問題だけでなく、日本の文化や習慣、マナーも知ることができました。日本語の勉強以外にも、スタディーツアー、日本の地方自治行政制度に関する講義なども受けました。JIAMでの1か月間の研修は、これから自治体で研修を展開することと日本で生活することに大変役に立ちました。

(3) 自治体研修(佐世保市役所) (6月21日－12月19日)

この半年間、佐世保市での研修は主に国際政策課で行いました。そのなかで、観光物産振興局で1か月間研修し、農水商工部産業振興課でも2週間研修しました。それ以外にも、自分が研修を希望して、中国での仕事に関する部門と組織(企業立地推進局、佐世保市商工会議所)を訪問しました。また中国には少ない施設である保育園にも見学に行きました。

① 国際政策課での研修

全般的に佐世保市の市勢や市政運営、総合計画、国際交流事業などを理解し、厦門との友好交流事業に連絡対応し、日中親善協議会や日中経済フォーラムに参加しました。国際政策課での研修を通じて、佐世保市は姉妹都市との交流を重視し、また他の部門と力をあわせて、観光、商工、青少年などの分野で様々な交流事業を積極的に展開していると思いました。



国際政策課での研修

[具体的な研修]

- ・ 厦門理工学院、厦門市交通安全局からの訪問団に対応し、市長表敬や佐世保市の部門と交流する時に国際交流員と一緒に通訳を担当しました。
- ・ 佐世保市と韓国のパジュ市との姉妹都市締結式に参加しました。
- ・ 市内の留学生とする環境学習会とモニターツアーに参加し、留学生と一緒にゴミ処理施設の見学およびゴミ分別に関する講習会を受けました。
- ・ 長崎県日中親善協議会設立 40 周年記念シンポジウム、厦門経済技術交流研究会総会などの交流会に参加しました。

② 観光物産振興局での研修

西海パールシーリゾート九十九島とハウステンボスを代表とする観光産業は、佐世保市の重要な産業の一つとして発展をしています。観光物産振興局での1か月間は、佐世保市の観光施設を見学したり、観光と物産の振興政策などの研修を受け、また、観光と物産に関するパンフレットを翻訳しました。



着物の着付け体験

観光施設以外には、物産関係の会社にも見学に行きました（水産会社、酒造会社など）。佐世保市は物産会社と協力し、佐世保特産品カタログを作っています。観光と物産を組み合わせることで、互いに促進ができ、中国ではあまりない良い取り組みだと思えます。

観光物産振興局では、観光客や市民たちが佐世保市の観光施設を利用するチャンスを増やすために、“わくわく夜の動植物園”や“カキ食うカキ祭り”といった色々なアイデアを作り、力を入れています。

③農水商工部産業振興課での研修

造船業を代表とする工業や水産業などは佐世保市の主要な産業であり、産業の振興は市の総合計画で重要な位置を占めています。佐世保市の産業の概要、支援政策など概要説明を受け、工業団地やみかん選果場、水産センターなどの施設に見学に行きました。農水商工部産業振興課での研修を通じて、佐世保市の産業振興の取り組みや施設などを知ることができました。

④その他の研修

- ・企業立地推進局：佐世保市が誘致したい産業や企業誘致の取り組み、工業団地の管理方法などについて説明を聞きました。また、中国及び日本における企業誘致についてお互いの経験や意見を交換しました。
- ・佐世保市商工会議所：佐世保市内の企業の発展状況や、中国又は海外への進出状況及び海外に進出する際に関心を持っていることについて意見を聞きました。
- ・市立保育園の見学：中国では赤ちゃんの面倒を見るのは大体夫婦の両親に手伝ってもらいますので、中国では保育園の数が少なく、施設もあまり完備していません。佐世保市の保育園見学を通じて、日本の保育園の運営状況やサービスなどを知ることができ、特にサービスの面では中国が勉強になるところがたくさんあると思っています。

⑤佐世保市での生活

佐世保市にいる半年間で、仕事や生活の面で職場の同僚に大変お世話になりました。今年の夏には友達と一緒にいろいろな祭りを見に行き、日本文化を満喫しました。また、民間の国際交流団体である佐世保市国際交流ボランティア協会(FIS)のおかげで、日本語の勉強を続けています。私はFISを通じて、ボランティア時代に入った日本では、さまざまなボランティア活動が活発に行われていること、また、年配の方がボランティア活動に参加して、充実、積極的な生活スタイルをすることに感心しました。



FISで日本語を勉強

3. 帰国後の展望

日本は先進国に入って約50年の歴史を持っています。今回実際に日本で生活をして、日本の文化や習慣等に直接触れることにより、日本の経済、文化、社会などの面におけるいろいろな先進的な取り組みや理念が大変参考になりました。厦門に戻ってから、厦門市政府の国際交流や観光、商工などの状況や取り組みを理解して、日本での研修で得た知識や技術を厦門

市政府の部門に提案したいと思っています。

この半年の経験は、私のこれからの人生でも大事にしたいと思っています。これからは日系企業と触れる機会がまたたくさんあると信じていますので、日本を理解し、日本の文化や習慣やマナーを勉強して、この経験を仕事で生かし、さらに廈門市の日系企業を誘致する事業を促進し、廈門にある日系企業によりよいサービスを提供したいと思っています。また、中国人の友達や同僚に日本の真実の姿を伝え、反対に中国の文化や現状を日本の方に伝え、さらに佐世保市と廈門市、日本と中国の民間交流の架け橋としての役割を果たしたいと思っています。

湖北省と大分県との将来の架け橋となるため

氏 名 李 新華
出身国 中華人民共和国
受入自治体 大分県
研修先 企画振興部国際政策課、観光関連企業等



1. 本事業に応募した動機

私は、中国湖北省恩施土家族苗族自治州政府の公務員として旅遊委員会（観光部門）に所属し、観光客誘致やガイドの育成等に携わっています。当地は中国において風光明媚な観光地として有名ですが、国外からの観光客の受入れ態勢や誘致の面で不十分なところがあります。このため、機会があれば世界の有名観光地を訪問して観光施策を学び、湖北省観光産業の発展に貢献したいと考えていました。

今回、湖北省と大分県との人的交流の一環として訪日する機会があると聞き、迷わず研修への参加を希望しました。大分県には中国でも有名な「別府」や「湯布院」といった人気の温泉観光地があります。また、「日本一のおんせん県おおいたの味力も満載」というツーリズムのキャンペーン施策が話題となっていることから、多くのことを学べると考えたからです。

加えて、湖北省と大分県、省都武漢市と大分市との友好交流を更に促進するため、観光を通じた相互往来を促進するなど、両地域の関係発展のため微力ながら貢献したいという想いを抱いていました。滞在中は観光施策を中心に大分県のことを一生懸命学び、多くの人々との出会いを大切に、将来的に両地域の架け橋として活躍できるよう研修に臨みました。

2. 研修の概要

大分県での研修は、県や市といった行政機関での研修をはじめ、観光関連企業等の研修など幅広い業務を経験させていただきました。

(1) 全体研修

私にとって初めての訪日でしたので、体験すること全てが新鮮で勉強になりました。来日時研修において受講した総務省講堂での講話やオリエンテーションが大変参考になったほか、日本の政治の中心である霞ヶ関の雰囲気を経験できたことも貴重な経験となりました。

また、全国市町村国際文化研修所（JIAM）での1か月に渡る日本語研修のおかげで、日常生活を送るうえでの日本語力を得ることができ、これから始まる大分県での専門研修への不安を無くすことができました。

(2) 専門研修（行政機関）

着任後すぐ、知事、副知事にご挨拶する機会があり、湖北省や恩施州について説明いたしました。知事からは、「滞在中に県内各地を観てまわり、本県の風土・文化を深く理解し、湖北省との架け橋となってください」との激励の言葉をいただき、改めて決意を深くして研修に臨むことができました。

研修の始めには、国際政策課をはじめ関係職員の方々から県の概要やツーリズム施策、県産品について説明を受けました。来県前にも大分県のことを調べていましたが、これまで知らなかった素晴らしい大分県の魅力を知ることができ、大変勉強になりました。

県庁での講義のほか、大分市役所、別府市役所、国際交流プラザやNPO法人大学コンソーシアムおおいたなど関係機関での研修を経験いたしました。大分県は、人口当たりの留学生数が日本一として国際化が進んだ地域ということもあり、外国人に対する支援策が非常に充実しているという印象を受けました。

また、体験研修として県立高校視察や農家民泊（グリーンツーリズム）にも行きました。特に感動したのは宇佐市安心院（あじむ）での農家民泊体験です。日本の一般的な家庭の雰囲気味わうことができたほか、これを観光資源として国内外にアピールし多数の修学旅行生を受け入れていることに感銘を受けました。中国でも都会育ちの人々に農家民泊の人気が高まっていることから、恩施州でも取り入れることができると考えています。



別府市の観光地「海地獄」視察



宇佐市安心院の農泊での
浴衣体験

(3) 専門研修（観光関連企業等）

県庁での研修を終え、観光分野の専門的な研修が始まりました。研修を通じて学んだこと、出会った人々全てが私の大切な財産となりました。

①株式会社 JTB 九州大分支店

大手旅行代理店の JTB 九州大分支店で2週間の業務を経験しました。営業に同行し、お客様のニーズに合った旅行商品を紹介したり、お客様からの相談に親身になって応えるなど、日本企業ならではのサービスと思いやりを学ぶことができました。また、社員の方々の勤勉さにも驚きました。朝早くから出社してしっかり準備をし、お客様に貢献する姿勢に大変感動

しました。この姿勢を見習って、今後の仕事に活かしていこうと考えています。

②公益社団法人ツーリズムおおいた

県の観光協会にあたるツーリズムおおいたで8週間の業務を経験しました。期間中には県内各地の観光地を視察し、それぞれの地域におけるPR手法などを学ぶことができました。ほかにも、中国旅行社からの問い合わせやホームページに掲載する中国語のチェックなど、幅広い業務を体験させていただきました。また、観光パンフレット等を空港、駅やホテル内の様々な場所に用意しておき、来県されたお客様がすぐ手に取れるようにする取り組みは大変参考になりました。

③株式会社花菱ホテル

別府湾を臨む老舗の花菱ホテルで6週間の業務を経験しました。日本の「おもてなし」の心を学ぶため、フロント、客室、レストランなどの幅広い業務を体験させていただきました。お客様をお迎えする際の心遣いや基本マナー、日本料理の盛り合わせ方など、全てが新鮮で勉強になりました。恩施州を訪れたお客様により一層満足していただくためにも、ここで学んだおもてなしの心を帰国後に紹介したいと考えております。



花菱ホテルでの研修の様子

3. 帰国後の展望

今回の滞在を通じて大分県の大ファンとなりました。日本一を誇る温泉や美しい自然景観、豊かな山海の幸など魅力豊かな観光資源に溢れています。帰国後は、一人でも多くの中国の人達に大分県を知っていただけるよう、あらゆる機会を捉えて大分県のPRをしていきたいと思っております。そして、観光による人々の相互往来を通じて湖北省と大分県との交流がさらに深まるよう、恩施州の旅行会社に働きかけ、「温泉の旅—大分県観光コース」を造成したいと考えています。また、担当している観光ツアーガイドの育成にあたり、大分県で学んだ取り組みやお客様に対するおもてなしの心を伝え、今後より良いサービスが提供できるよう努力して参ります。大分県で学んだことと知り合った人々との絆を活かし、今後も湖北省と大分県の架け橋として一生懸命頑張ります。

最後になりますが、研修期間中にお世話になった皆さま方には、心から感謝申し上げます。大分県の皆さまには、湖北省にお越しいただくことを心から期待しております。